

DPと対応づけた学生による授業評価と授業の課題

理科教育講座・山崎哲司

授業の概要

小学校の免許状に必要な教科科目の1つであり、教員養成課程の学生にとっては選択必修の科目である（1年後期開講科目）。この科目は2種類開講しており、物理・生物の領域を主とする内容ものと、化学・地学の領域を主とする内容のものが開かれている。私が担当するのは後者であり、化学を専門とする教員と二人で実施している。

○授業の目的（シラバスより）

小学校理科の「物質・エネルギー」の化学分野を中心に、そして「生命・地球」の地学分野を中心に学ぶ。小学校教員にとって必要な、教科の基礎知識を習得するための科目である。学習指導要領に含まれる内容に関連した身の回りの自然や事物を、演示実験や授業例の紹介などを織り交ぜながら扱い、教材について考えるとともに科学的な見方や考え方を身につける

○到達目標

1. 小学校理科分野の基礎知識について理解し、原理を含めて説明することができる。
2. 気象用語や暦にまつわる用語など、日常的に用いられる言葉を知り、説明できる。
3. 事例に基づき教材の工夫についてグループで議論し、改善点を述べるができる。
4. 身近な自然や身の回りの現象について、グループワークなどを通して深く考え、発展的な内容を含む事象を、論理的・科学的に説明できる。

○関連するディプロマ・ポリシー

・教科・教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している（知識・理解）

○授業の方法，形態，内容の概要

私の担当部分であるが、基本的には3年生の内容から始め、6年生の内容へと進む。これは、下の学年とのつながりをきちんと意識し、また発達段階も少し考えながら、小学校理科の内容を学んでもらうためである。そのため、取り上げる単元のそれぞれで、学習指導要領解説から入り、必要に応じて教科書の一部を紹介している。また、教育実習などで実習生が勘違いしやすい点（受講生

が“間違っ理解”することの多い点でもある）も取り上げながら、話を進めている。

○今年度，特に感じたこと

この授業では毎回の授業内容をまとめる、と言うレポートを次の回までの課題として課している（成績評価に大きなウェイトを占める）。また、全ての回ではないが、「課題」を出しており、“調べて”記述することが必要である。提出されたレポートは、その次の週に評価とともに返却される。

実は前期の授業でも同じようなことがあったのだが、“調べる”ことができないという現象が、年々強くなっているように感じられる。“検索して書き写すだけ”に終わってしまう。「調べるというのは、自分の言葉で説明するようにできる状況になっていること」と話すが、非常に難しい言葉が、そしてまた同じようなホームページの言葉が並ぶというのがほとんどである。そのため課題については、「○○について調べなさい」という、単純に単語の検索をするものではない問いにしている。

例えば『○○』は予知ではない。その理由について述べなさい」として、『○○』について“調べて”（少しは）理解した上で解答する、という想定のもを課題とした。とは言え、『○○』について検索をして内容を読めば、難しく考えなくても簡単に答えが出るような問いである。しかしながら、京都大の入試で話題になった Yahoo 知恵袋などの存在のためか、こうした問いでさえも、どうやら少し検索条件を増やせば、解答に近いものが出てくるようである。どうしようもないと言えばそれまでなのだが、ほんの少し考えれば解答できるような内容まで答を探そうとする状況には、恐ろしさを感じている。

2. アンケート結果

テスト（16回目）の前の週に、「DPと対応づけた学生による授業評価」を実施した。この授業科目でのアンケートは、以前にも実施したが提出に遅れてしまったので、その点で言えばデータとして残るのは初めてかも知れない。

受講者数（最終的にすう，優，良，可，不可を

出した人数)は48名であったが、アンケートへの回答者(記入不足の項目があった者を除く)は36名である。受講者の中には「新課程」の学生1名もいたが、アンケートを取った回には欠席していたため、教員養成課程の学生のみが回答をした。学年で言えば1年35名、3年1名である。

	DP1A	DP1B	DP2A	DP2B
④	17	16	4	2
③	16	17	12	16
②	3	3	5	3
①	0	0	15	15

	DP3A	DP3B	DP4A	DP4B
④	11	7	11	10
③	19	22	22	19
②	4	5	2	4
①	2	2	1	3

	DP5A	DP5B
④	7	4
③	13	12
②	2	6
①	14	14

DP1については、シラバスでも授業内容が対応するものとしており、この項目に高い評価の④(十分貢献した)と③(貢献した)が多くなると問題である。それ以外ではDP3とDP4の項目に④や③が多くなっている。DP4については、「自己の学習課題を明確にすること」や「主体的な学習への意欲」という文言が入っているため、毎回のレポートが、これに結びついた可能性が考えられる。毎回の課題というのは、レポートのチェックをする側にとってかなりの負担になっているのだが、左記の文言に対応すると考えれば、重要な取り組みと考えられよう。なお、以前に独自のアンケートを行った際に、毎回のレポートによるまとめで学修の点検をすることについては、「自分自身の課題が把握できる」などの意見が多く見られたことから、あながち間違った解釈ではないと考えている。

DP3の評価については、理由が不明である。DP2とFP⑤については、③と①に多くの評価が集まっている。授業内容から考えると、①になると思っているのだが、学習内容のつながりや、子どもの反応などを取り上げている中に、その要素を感じた受講生がいたのかも知れない。

DPとの対応については、今回は教育学部のD

Pとして設定した項目との対応という設問になっていたためか、大きな齟齬は生じていなかったと思われる。得られた結果から何を導き出すのかについては教育コーディネーターにお任せするとして、個々の授業については、授業者側の想定しているDPがほぼ満たせているようであれば、十分ではないかと判断する。

この科目以外で、生活環境コースの「古環境論」という授業(選択、3年後期)で、少し形式の違うDPとの対応アンケートも試みた。それは、生活環境コースのDPとともに、「教職課程のDP」を並べ、授業内容と関連するDPはどれか、複数回答してもらうものである。コースの科目であるとともに免許科目(中・高理科の教科科目)であるため、学生はどのように感じているのかを知りたかったのであるが、両DPの1(知識・理解)を合わせて(複数回答可なので)多くの学生が選んでおり、またそれ以外のDPについても片方のDPに偏って選んでいなかった点から、コースの科目なのか教員免許の科目なのかと考え過ぎていたのかも知れない、という結論に至っている。

3. まとめ

今回はDPに関するアンケートのみ行った。それ以外については、こういう点を質問してみたい、というものが思い浮かばなかったためである。授業内容は毎年少しずつ変えているが、今年度は「こういう試みをしてみよう」というものがほとんど無かった、という結果が、アンケートに現れてしまった。

次年度からは共通教育で「アクティブ・ラーニング」を意識した授業に取り組むことになっており、私自身も『協同学習』などの手法を(擬きではなく)きちんと取り入れた授業を試みたい、と以前から思っているのだが、きちんとした授業設計をする余裕がなく、次々と新たな学期を繰り返して迎えている。アクティブ・ラーニングを本格的にしようとする、今までの授業内容を大幅に見直し、“教える”という意識を変えて行かなければならない。それだけのエネルギーが残っていないように思われるし、「教職実践演習」を何とかしなければならない、というのが第一であるが、完全には諦めてしまわないように、僅かでも意欲を持ち続ける、というのが現在の課題である。